

審議会等議事概要

平成28年度 第1回滝川市いじめ防止専門委員会 議事概要

日 時	平成28年9月29日(木) 15:30~16:30
開催場所	滝川市役所 7階 701会議室
出席者	委員：富家 ^{ただあき} 直明委員、中川桂子委員、神原 ^{かんぼらあつし} 充史委員、豊田 ^{おさむ} 収委員 事務局：山崎教育長、田中部長、小野指導参事、杉原課長、寺嶋課長補佐、堤主査
議 事	<p>1 開 会 進行：寺嶋課長補佐</p> <p>2 教育長挨拶 山崎教育長</p> <p>3 委員紹介 事務局より委員・事務局員の紹介</p> <p>(会長選出) 富家直明委員を会長に選出</p> <p>(以後の進行は会長による)</p> <p>4 議 題</p> <p>(1) 報 告</p> <p>i 滝川市子どものいじめの防止等に関する条例の概要について</p> <p>ii 滝川市いじめ防止対策専門委員会の組織等の概要について</p> <p>iii 市及び市立学校におけるいじめの防止等に係る取組状況について</p> <p>iv いじめアンケート調査(1回目)の結果概要について</p> <p>i~ivについて、堤主査より報告</p> <p>質疑応答</p> <p>①委員)</p> <ul style="list-style-type: none">・いじめアンケートの結果において、「今もいじめられている」と回答している児童生徒が約3パーセントで推移しているが、この数字をどのように受け止めているかを伺う。 <p>事務局)</p> <ul style="list-style-type: none">・同じ児童生徒が継続した訴えをしていないかという点に着目して経年を見てきたところであり、約3パーセントという数字そのものについては特に重視して背景等を考えるということはできていないのが現状である。しかし、経年横ばいで推移しているこの数値を下げるための手立てを取る必要性は感じるところである。

②委員)

- ・約3パーセントの「今もいじめられている」という数字は、学校現場の印象と多寡の相違があるのかを伺う。

事務局)

- ・約3パーセントという数字は低い印象を持たれていると考える。教職員は、実際にはもっと嫌な思いをしている児童生徒がいるのではないかという思いは常に持っているのではないかと思う。

(2) 協 議

i 滝川市いじめ防止専門委員会の事業計画について

ii いじめに関する通報・相談状況について

iii いじめ認知状況について

i について、堤主査より説明

(会長以下より事業計画について了承を得る)

ii、iii について、堤主査より説明

質疑応答等

ii、iii について

①委員)

- ・周りの人の気づきや学校への相談でいじめが早期に発見され、深刻になる前に解決が図られていると感じた。
- ・家庭の経済状況を引き合いに出し揶揄したいじめの事例は非常にショックであった。

②委員)

- ・いじめが解決した後の状況も良好であるとの報告を受け、安堵したところである。

③委員)

- ・いじめアンケートからいじめが発覚した事例が複数あり、児童生徒がいじめの訴えを記入しやすい雰囲気を作られていると感じるとともに、アンケートの有効性を感じることができた。また、いじめアンケートで「いじめられた時に誰に相談するか」という問いに対して「誰にも相談しない」と答えた児童生徒が減少傾向にあることも、アンケートへの記入同様、いじめの訴えを発信しやすい雰囲気の表れであると感じたところである。

④委員)

- ・いじめアンケートの結果を児童生徒に周知する機会はあるのかを伺う。

事務局)

- ・児童生徒に直接周知するという事は行っていないが、各学校の学校だよりで自校の結果を保護者へ周知している。

委員)

- ・『たきかわ子ども会議』などで児童生徒自身がいじめ根絶の活動をしている

ことから、いじめアンケートの結果から好転が見られる点など、その活動の成果が直接わかる機会があるとよいと思う。

事務局)

- ・11月に行われる『絆づくり成果交流会』においていただいたご意見を加味し、進めていきたい。

⑤委員)

- ・小学校高学年からは相談相手に友達を選ぶことが多くなる。相談された友達はその時にどのように動いたらよいのかということも、今後の取り組みとして希望するところである。

事務局)

- ・今回のいじめ認知事案のうち一件は、いじめアンケートで「いじめを見たり聞いたりしたことがある」と回答があったことから発覚したものであった。子どもたちの声を拾い、向き合ってその訴えにしっかりと対処する取り組みが、信頼関係の構築や話しやすい雰囲気作りのために最も重要であると考えている。

⑥委員)

- ・毎回会議に参加しているが、一つ一つの事案に対して丁寧に情報を吸い上げ、教育の機会としてこれらを捉えて対応しているのは素晴らしいと感じている。

⑦委員)

- ・今回のいじめ認知事案が小中学生だったこともあるのかもしれないが、ライントラブルが少ない印象である。各学校でラインを含めたSNSトラブルの未然防止の取り組みを行っているのか、そしてその効果が表れている結果であるのかを伺う。

事務局)

- ・各学校においてSNSに関わる情報モラル教育や保護者への啓発は行っているところである。いじめ事案としてSNSが前面に出てくることは今回は一件のみであったが、問題行動面ではSNSに起因するものが複数見受けられる状況であり、もう一步踏み込んだ取り組みが必要であると感じている。

⑧委員)

- ・高校生のいじめは見えにくく、発覚した時には深刻な事態になっていることも少なくない。滝川市では北海道教育委員会主催の「いじめアンケート」の他に、高等学校独自のいじめアンケートも行っているとのことで、多面的な情報収集は高校生のいじめの特徴に鑑みて有効である。

全体を通して

①委員)

- ・いじめアンケートの「いじめはどんな理由があっても許されないことだと思いますか」との問いに5パーセントの高校生、2パーセントの中学生、3パーセントの小学生が「そう思わない」と回答している。人権擁護活動では「い

	<p>じめは許されない」ということを啓発してきたところであるが、この数値を少しでも下げられるよう、今後も活動していく所存である。</p> <p>5 次回の会議開催 予定日：平成29年2月上旬（予定）</p> <p>6 連絡事項 報酬及び旅費支払いのための口座確認について</p> <p>7 閉会</p>
会議資料	会議次第